



2020年には、広島に投下された原爆の犠牲となった女性の遺品ピアノにインスパイアされて作曲したピアノ協奏曲第4番《Akiko's Pano》や、全体主義の脅威を描いたオペラ《アルマゲドンの夢》が世界初演され、大きな話題となりました。

### Aquarius (アクエリアス)

カルテット・アマービレの委嘱により、2020年に作曲された第3番となる弦楽四重奏曲。  
演奏時間は約10分。

(以下は藤倉さん自身による英文の解説を滝田織江さんが日本語に訳した文章です)

弦楽器アンサンブルは、単なるソロの弦楽器の集まりではないと思っている。弦楽器たちが一緒に音を奏でると、まったく別の楽器、まるで別の生き物のようになるから。

弦楽四重奏を含む弦楽器アンサンブルのサウンドには弾力性がある。その弾力性のある弦楽アンサンブルこそが、ある形からまた別の形へと連続的に形を変えて、変容していくことができる、唯一の組み合わせだと僕は思う。

形だけじゃない。サウンドを聴きながら、触ってみたり、絞ってみたり、食べてみたらどうだろう、と僕は想像しはじめる。ふーむ、外側はカリッと固いけど、内側は柔らかいな。いや、その逆かな？どんな味だろう……

隙間や断片感のない、自由に変化していく作品を作りたいと僕は思った。気づいたときには、もう弦楽四重奏がその少し前に演奏していたものとはまったく異なるサウンドを奏でているような。

作品タイトルは、浮遊する、液体のような形を想像していたので、「アクエリアス」がぴったりだと思った。そして偶然にもこの作品を書き終えたのは、これから2000年続く水瓶座の時代(アスエリアスエイジ)に突入した(または、ちょうどする)頃だった。

西洋占星術について僕は全く知らなかったし、特別興味があったわけではないけど、せっかくこんなタイミングに居合わせたので「アクエリアス」と名付けるしかなかった、というわけだ。

## ●メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第6番 へ短調 Op.80

メンデルスゾーン(1809-1847)の全6曲の弦楽四重奏曲の内、1847年に書かれた最後の曲。

この年、メンデルスゾーンはまだ38歳ですが、作曲、指揮活動(ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮など)、演奏活動(ピアノ、オルガン)での疲労が重なって体力も落ち、死を予感していたことと、同年5月の姉ファニーの死(42歳)に際しての悲しみが、へ短調という調性に反映されています。(全4楽章で30分ほど)

第1楽章 Allegro assai 2/2拍子 へ短調

冒頭からのトレモロの響きが不安感を募らせます。

第2楽章 Allegro assai 3/4拍子 へ短調

スケルツォです。短調の響きが前面に出ています。

第3楽章 Adagio 2/4拍子 変イ長調

調性は長調ですが、明るさは控えめです。

第4楽章 Allegro molto 2/4拍子 へ短調

最後は3連符の響きで圧倒的に終わります。